

子供の未来応援基金 令和3年度活動事業報告書

子供の未来応援国民運動推進事務局



ご挨拶	1
子供の未来応援基金について	2
令和3年度の活動	3
令和3年度未来応援ネットワーク事業実績報告、令和3年度活動の成果	4
基金の財務状況	5
令和3年度未来応援ネットワーク事業活動レポート	
①様々な学びの支援	
●学習を通して自信につなげる 香川県「まんまるサポート」	6
●「わかる」を探求し、自分の将来を切り拓く 山梨県「子ども・教育と貧困問題を考える会」	7
②居場所の提供・相談支援	
●住民一丸となって親子を支える、地域のセーフティネット 大阪府「ヒューマンワークアソシエーション」	8
●利用者みんながほっとできる場所に 千葉県「せんなり村」	9
③衣食住など生活の支援	
●支援につながりにくい対象へのアプローチ 埼玉県「ハピママメーカープロジェクト」	10
●こどもを中心とした地域の拠り所に 熊本県「いこいスペース∞こあ まるちゃん家」	11
④児童又はその保護者の就労支援	
●親子で苦境を乗り越える力を養う 北海道「北見NPOサポートセンター」	12
⑤児童養護施設等の退所者等や里親・特別養子縁組に関する支援、他	
●施設出身者の孤立を防ぐ 愛知県「なごやかサポートみらい」	13
こどもたちと家庭の変化	14
支援に携わる方、ボランティアの方の声	16
令和3年度未来応援ネットワーク事業 支援団体一覧	17
ご協力いただいた企業・団体	20

子供の未来応援基金にご寄付をいただいた皆様に心より感謝を申し上げます。

本基金は、平成25年6月の「子どもの貧困対策の推進に関する法律」の成立、平成26年8月の「子供の貧困対策に関する大綱」の決定を受け、こどもの貧困対策を官公民の連携・協働プロジェクトとして推進する観点から、平成27年10月に創設されました。本基金の創設以来、企業や個人の皆様から広く寄付を募り、貧困による困難を抱える子どもたちを支える、草の根の団体への支援を継続しています。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、子どもたちを取り巻く環境は一層厳しいものとなりました。感染症対策を講じるため、こども食堂では「共食」の機会に制限が生じたり、学習支援活動では対面型に加えてオンライン型の活動を導入したりするなど、支援活動の在り方に変化が生じました。こうした状況の下、令和4年1月に支援を決定した事業についての本基金への応募は、前年に比べ約1.6倍の約500件に上り、本事業へのニーズが拡大しています。

また、令和5年4月には「こども家庭庁」が発足し、こどもの視点に立った必要な政策に取り組もうとする中、厳しい状況にある子ども達の生活の安定や学びの継続に向けて、社会全体で支援していくことは大変重要です。本基金ではこれまで、全国の団体の皆様から、「支援を得ることで、行政や地域の信頼を得ることができ、団体の活動が大きく前進しました」、「子どもたちの権利を守っていく上で、この事業は必要不可欠」といった声をお寄せいただきました。こうした声に接する中で、これからも、子どもたちを支える環境を社会全体で支援していくための一助として、本基金の意義を改めて認識しているところです。

寄付者の皆様のご支援に改めて感謝申し上げますとともに、お預かりした寄付金の活用成果について、本事業報告書をもってご報告いたします。

令和4年10月 子供の未来応援国民運動推進事務局
[内閣府、文部科学省、厚生労働省、独立行政法人福祉医療機構]

子供の未来応援基金について

沿革

平成27年10月、子供の未来応援基金は、こどもの貧困対策に係る官公民の連携・協働プロジェクトとして創設されました。

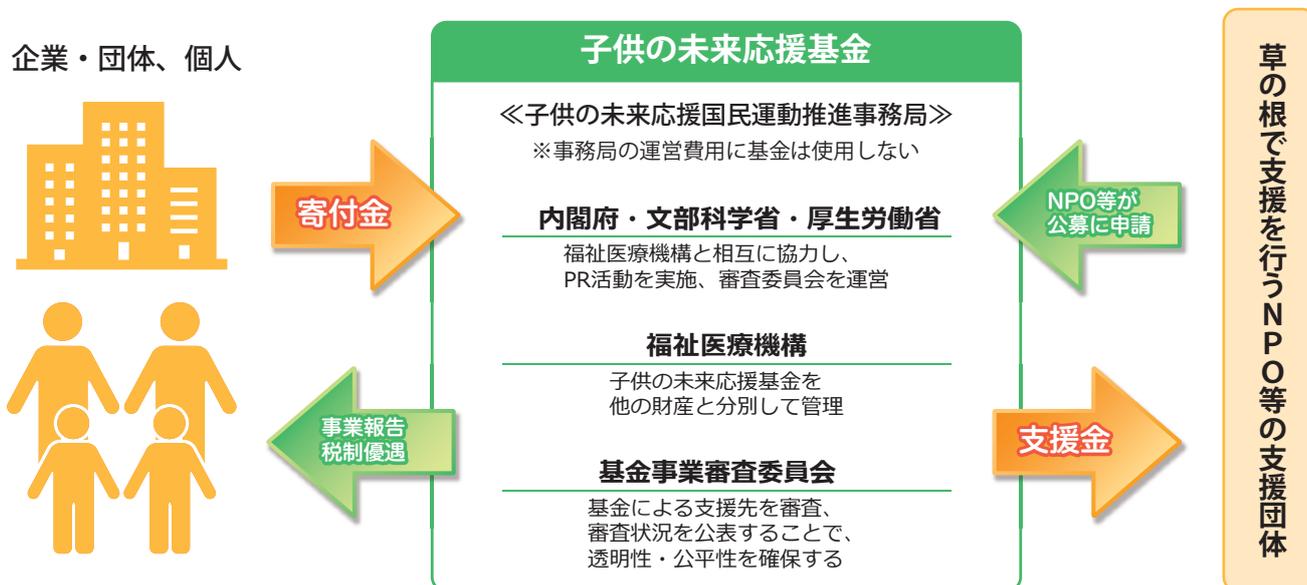
こどもの貧困については、放置することにより、こどもたちの将来が閉ざされてしまうだけでなく、社会的損失にもつながることから、困難を抱えたこどもたちを支える民間の活動を支援するため、寄付金を原資とした本基金を創設し、平成28年より「未来応援ネットワーク事業」として支援金の交付を継続しています。

支援金の使途については、①様々な学びを支援する事業、②居場所の提供・相談支援を行う事業、③衣食住など生活の支援を行う事業、④児童又はその保護者の就労を支援する事業、⑤児童養護施設等の退所者等や里親・特別養子縁組に関する支援事業、⑥その他、貧困の連鎖の解消に資する事業とし、外部有識者等で構成される審査委員会において申請内容を審査の上、支援先を決定しています。

平成27年4月	子供の未来応援国民運動 発起人集会 関係閣僚や経済界、教育・福祉関係者など様々な分野から発起人が集い、民間資金による基金創設を検討することなどを決定しました。
平成27年10月	子供の未来応援基金を創設 子供の未来応援基金の寄付を募る活動を始めました。
平成28年7月～	未来応援ネットワーク事業の公募を開始 年1回、支援先を全国から公募・決定。支援を受けた団体が活動しています。

子供の未来応援基金の管理・運用体制

子供の未来応援基金は、内閣府、文部科学省、厚生労働省、独立行政法人福祉医療機構により構成する「子供の未来応援国民運動推進事務局」が管理・運用しています。



■子供の未来応援基金事業審査委員会

子供の未来応援基金による支援については、支援先となる団体を公募し、その申請内容について「子供の未来応援基金事業審査委員会」において審査の上、決定しています。本報告書に掲載の令和3年度事業は、以下の委員に審査していただきました。

<委員>

- 小川 晶子 ライオンズクラブ国際協会日本ライオンズ大学校幹事
- 菊池 まゆみ 藤里町社会福祉協議会会長
- ◎ 草間 吉夫 茨城キリスト教大学非常勤講師
- 小山 遊子 株式会社イトーヨーカ堂経営企画室CSR・SDGs推進部総括マネジャー
- 本田 和彦 横浜市こども青少年局総務部長
- 西田 進 一般財団法人アズビル山武財団専務理事
- 宮本 みち子 放送大学名誉教授・千葉大学名誉教授
- 室田 信一 東京都立大学人文社会学部人間社会学科准教授

(五十音順、敬称略。◎は委員長。役職は令和2年12月4日時点)

令和3年度の活動

令和3年4月

- 「令和3年度未来応援ネットワーク事業」支援団体の活動が始動。

令和3年8月

- 子供の未来応援基金事業審査委員会において「令和4年度未来応援ネットワーク事業」の実施について審議。
- 「令和4年度未来応援ネットワーク事業」による支援団体を公募。(募集期間：8月23日～10月4日)

令和3年12月

- 子供の未来応援基金事業審査委員会において「令和4年度未来応援ネットワーク事業」による支援対象を審査。(22日)

令和4年1月

- 「令和4年度未来応援ネットワーク事業」により支援を行う団体を公表。(18日)

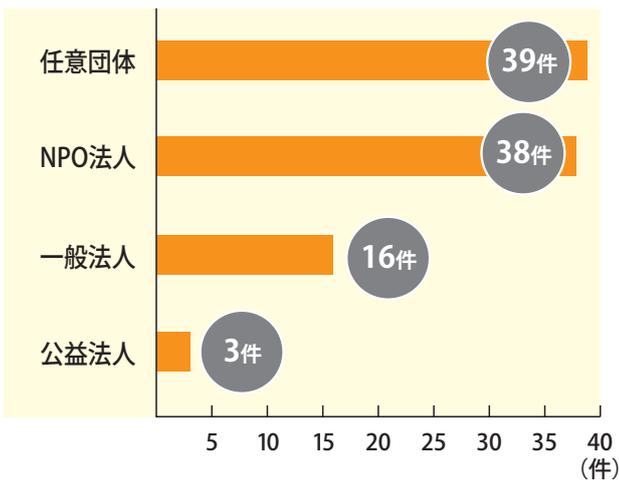
令和3年度未来応援ネットワーク事業実績報告

令和3年度は、全国の96団体に対し支援を行いました。

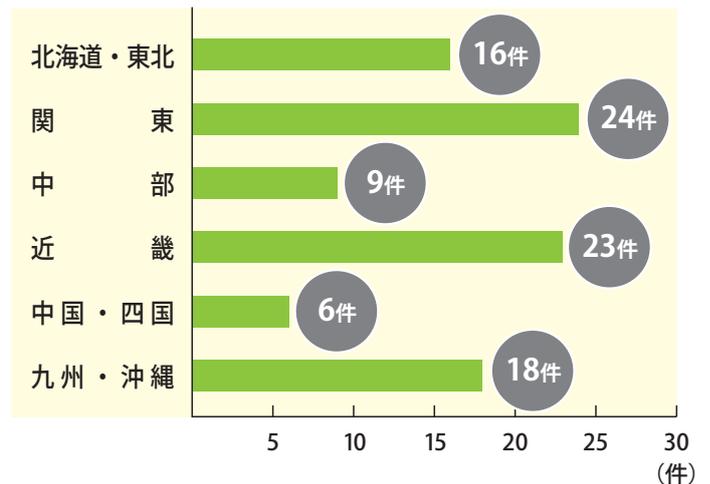
支援件数 計96件

様々な学びを支援する事業	27件
居場所の提供・相談支援を行う事業	38件
衣食住など生活の支援を行う事業	20件
児童又はその保護者の就労を支援する事業	4件
児童養護施設等の退所者等や里親・特別養子縁組に関する支援事業	6件
その他、貧困の連鎖の解消につながる事業	1件

支援先団体の区分別内訳



支援先団体の所在地域別内訳



令和3年度活動の成果

令和3年度の活動において、**46,327名**の子ども・保護者に支援を届けました。



20,212名

様々な学びの
支援



13,986名

居場所の提供・
相談支援



9,615名

衣食住など
生活支援



397名

児童、保護者の
就労支援



2,117名

児童養護施設等の
退所者等の支援

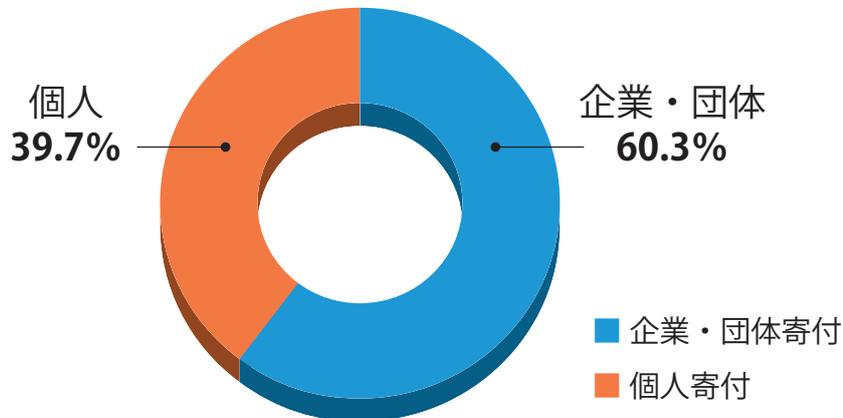
※助成団体からの報告を単純集計したものの。

基金の財務状況

■寄付金収入

令和3年度末時点(累計)

17億1,153万1,172円



寄付金収入の割合

■寄付金支出

令和3年度末時点(累計)

13億2,384万4,000円

● 支援実績

事業年度	活動期間	支援実績 (支援決定額)	
平成28・29年度 未来応援ネットワーク事業	平成28年10月 ～平成29年9月	86団体	3億1,600万円
平成30年度 未来応援ネットワーク事業	平成30年4月 ～平成31年3月	79団体	2億6,600万円
平成31年度(令和元年度) 未来応援ネットワーク事業	平成31年4月 ～令和2年3月	71団体	2億800万円
令和2年度 未来応援ネットワーク事業	令和2年4月 ～令和3年3月	97団体	1億3,200万円
令和2年度 新型コロナウイルス感染拡大への 対応に伴う緊急支援	令和2年7月 ～令和3年3月	20団体	5,300万円
令和3年度 未来応援ネットワーク事業	令和3年4月 ～令和4年3月	96団体	1億4,600万円
令和4年度 未来応援ネットワーク事業	令和4年4月 ～令和5年3月	133団体	2億200万円

① 様々な学びの支援



まんまるサポート(香川県)

学習を通して自信につなげる

NPO法人「まんまるサポート」は、香川県高松市で、不登校やひとり親世帯、放課後の居場所が無いなど、学校や家庭以外の場所での支援が必要な子どもを対象に、学習支援を行っています。

サポートするのは大学生(有償ボランティア)や教師OB。小学生には宿題や長期休暇の課題、中学生や高校生には中間・期末テスト対策に加え、中学3年生には受験に向けた入試対策など、参加するこどもの特性やニーズに合わせて、一律指導ではなく個別のサポートを行っています。

令和3年度未来応援ネットワーク事業においては、新型コロナウイルス感染防止のため、密にならないよう1回あたりの参加人数を減らし、代わりに実施回数を週2回から徐々に増やして週4回とし、1年間で合計154回の学習支援を実施しました。

継続した支援を行うことで、参加した子どもには、「学習に対する集中力が向上した」、「登校への意欲が高まった」、「これまで自分だけの力ではできなかった宿題をやり遂げることができ、自信をもって登校できるようになった」などの変化が見られました。その結果、高校を

受験した生徒は、志望校に合格し、進学の実現ができました。

また、別の子どもたちや大学生と一緒に勉強したり、ゲームをしたりしながら一緒に過ごすことで、コミュニケーション能力が身に付き、他者に対して自分の意見を言えるようになりました。

学習支援の他に、進学・就労への意欲向上を目的に、職業体験も実施しました。一時はコロナ禍の影響で開催も危ぶまれましたが、地元企業や農家の協力により、ジャンルの異なる3つの事業所にて職業体験を実現することができました。

また、生活スキルの習得を目的に、料理教室や裁縫教室も実施しました。

当NPO法人は、令和3年4月に現在の場所に拠点事務所を開設しましたが、学校や行政、スクールソーシャルワーカーとの連絡体制を活用したり、近隣住民への声掛けやチラシ配布、自治会や民生委員・児童委員へ協力を要請したりすることにより、困難を抱えた世帯のニーズを把握し支援につなげることができました。地域の人達からは、更なる協力の申し出も増えており、子どもたちへの関心を喚起することができたと感じています。



子ども・教育と貧困問題を考える会(山梨県)

「わかる」を探求し、自分の将来を切り拓く

NPO法人「子ども・教育と貧困問題を考える会」は、経済的な困難を抱えた家庭の中学生を対象に、山梨県内の5か所の教室で無料の学習支援を実施しています。

経済的に困窮している家庭の子どもたちに、貧困の連鎖の解決のための道筋の1つとして、中学生の段階で基礎学力を身に付け、将来の進路選択で自らの希望する道を選択し、自立していくことが必要と考え、平成29年に無料の学習支援を行う団体を立ち上げました。

「無料塾」「タダゼミ」と呼ばれるこの学習支援塾は、元教師、大学生、元塾講師、主婦など、約20名の多彩な講師陣が、『わかる』ことは楽しいです。『わかる』ことを支援します。そしてみんなと一緒に『わかる』を求めていきましょう。そして自分の将来を切り拓きましょう。」と呼び掛け、学習をきっかけに、子どもたちが自分の進路に、より希望が持てる状態となることを目標にサポートを行っています。

令和3年度未来応援ネットワーク事業においては、コ

ロナの感染拡大のため活動を自粛した期間もありましたが、予定通り、年間35週開設し、1回につき3時間の学習支援を、5か所において合計175回行いました。中学3年生は希望の高校に進学することができ、自分の力で道を切り拓く一歩を踏み出しました。

こどもの居場所づくりとして予定していた夏の交流会やクリスマス会などの交流イベントは、コロナの関係で十分にできず、卒業となる中学3年生を招待した映画上映会のみの実施となりましたが、地域の子ども食堂と連携し、昼食の配布などを通して共に学ぶ仲間との交流を深めることができました。

最近では、地元の新聞で生徒を募集したことも影響し、参加の問い合わせが増えました。中でも、外国籍のこどもの希望が増加しています。コロナ禍により、不安が増大したと感じている子どもや保護者にとって、少しでも安心できる材料が増えるよう、今後も地域での学習会を継続していきます。

②居場所の提供・相談支援



ゆるりできるカフェ OPEN

高校の中でゆっくりしませんか？

なにができるの？

- ちょとしたお菓子をおいいただきます。無料！
- 学校の所でゆっくりしたいときにきてください。
- スタッフと話してストレスを放くのもアリ！
- 勉強や作業の事など、話してみるのもOK！
- もちろん、一人でゆっくりするのもクールな人！

場所 4階の4C教室

毎週火木 12:30~13:30

2021年度

若者まるっとサポート

一般社団法人 ヒューマンワークアソシエーション

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL: 072-655-1821 FAX: 072-647-9817

〒590-0001 大阪府大阪市東淀川区東淀川4-6-10

TEL: 06-6541-1111 FAX: 06-6541-1112

〒590-0001 大阪府大阪市東淀川区東淀川4-6-10

TEL: 06-6541-1111 FAX: 06-6541-1112

〒590-0001 大阪府大阪市東淀川区東淀川4-6-10

TEL: 06-6541-1111 FAX: 06-6541-1112

ヒューマンワークアソシエーション(大阪府)

住民一丸となって親子を支える、地域のセーフティネット

大阪府内各所で、生活困窮者等に対して就労支援や生活支援を行う、一般社団法人「ヒューマンワークアソシエーション」は、直接は見えづらいこどもの貧困にも着眼し、令和3年度未来応援ネットワーク事業において、茨木市内でのこども食堂や居場所事業を実施しました。

団地の子育て世帯を中心としたセーフティネット事業として、困窮世帯のこどもを対象に、学校給食のない土曜日に、小規模のこども食堂を開きました。その前後2時間に学習支援やスポーツ活動を行うことで、こどもや保護者のリフレッシュを図りました。活動により得た情報は、地域の人権協議会で共有し、地域住民一丸となって世帯のサポートに当たりました。コロナ禍の影響で、こども食堂を開催することができなかった期間は、弁当の宅配により、こどもたちの様子を確認しました。弁当の宅配を実施したことで、各世帯の様子を知る機会が増え、必要な援助につなげることもできました。こども食堂には、一年間で延べ412名が参加し、世帯への介入は32件行うことができました。

また、団地に住むこどもたち向けには「やりたいことから始める学習支援」も行いました。困窮世帯の児童がコロナ自粛明けに不登校状態となり、家庭内のストレスが溜まっていたり、不登校などにより、日中はこどもが

一人で過ごしていたりする状況を受け、総じて低くなっている自己肯定感を高めてもらうため、まずは自分がやりたいことから始めてもらうアプローチを実施し、こどもたちの自信につなげました。長期休み明けに不登校になる生徒が多く、延べ参加人数は172人、世帯への介入は48件となりました。

海外ルーツの生徒の割合が多い地域の高校においては、相談への第一歩として、校内の一教室でカフェを運営し、リラックスした雰囲気の中で気軽に話しながら、必要に応じてサポートを行う事業を行いました。令和3年度は112件の相談があり、保護者の支援にもつなげました。日本語が満足に話せず、行政からの複雑な日本語による通知を理解することが出来ない保護者は、利用できる制度を利用することが出来ず、生活の困窮度が高くなっているため、生徒を通じて必要な社会資源へとつなげました。

フードバンク事業においては、企業や市民からの食材の寄付が、目標の2倍となる612キロに達し、協力の輪が広がっていることを実感しています。

今後も、地域の協力を得ながら、団地連絡会、人権協議会、学校やソーシャルワーカーなど関係者と協働し、地域のセーフティネットとして親子を支えていきます。



せんなり村(千葉県)

利用者みんながほっとできる場所に

千葉県佐倉市を拠点とするNPO法人「せんなり村」は、コロナ禍による外出自粛により、人と人との交流が減少し、こどもの貧困問題や高齢者が直面する「孤食」「コミュニケーション能力の低下」等の社会問題の解決策の一つとして、月に一度、こども食堂「ふれあい食堂」を実施しています。

元々は、晩ごはんをみんなと一緒に食べる機会を提供し、「同じ釜の飯を食べる」ことを通して、地域の人と交流を図る予定でしたが、コロナの感染拡大により実施が厳しくなり、ドライブスルー方式や外で食べるピクニック方式に変更しました。

また「ふれあい食堂」の開催日には、こどもたちが店員さんやお客さんになって、売る／買う楽しさを味わう「村の駄菓子屋さん」も実施しました。参加した保護者からは「自分で考えてお菓子を選んで、お友達と共有するということが、とても楽しいようです」「商業的な駄菓子屋しか知らないので、アットホームな駄菓子屋の経験が出来てありがたいです。店員さんが無表情じゃないのが何より良いです」などのコメントが寄せられ、大好評でした。

長引くコロナ禍において、地域の人から「外で安心し

て過ごせる場所がない」との声が多く、こども食堂などに対するニーズを感じていたため、感染症対策を講じながら、開催する方法を練りました。令和3年度未来応援ネットワーク事業においては、「ふれあい食堂」には延べ2,041人、「村の駄菓子屋さん」には延べ1,149名が参加しました。このほか、子育て講演会「せんなりマルシェ」（家族でふれる音楽と子育て）には289名が、こどもの居場所づくり「村の習字教室」には全3回で延べ40名がそれぞれ参加しました。

開催するにあたり、まずはスタッフ間でコロナ対策の基礎知識を学び、共通理解を図りました。人が集まることによる感染リスクの懸念や、毎回の消毒作業により、手間も増えましたが、コロナ禍でも活動を継続していることを知って新たに支援してくださる方や、ボランティアとしてお手伝いしてくださる団体も増えました。

いつもの馴染みの顔ぶれで、話しやすいスタッフがいて、地域の人が気軽に訪れることができる場所、地域の人に開放的な場所となり、せんなり村を訪れるすべての人が、人と人とのつながりを大事だと感じられる地域の拠点となることを目指して、これからも活動を続けます。

③衣食住など生活の支援



ハピママメーカープロジェクト(埼玉県)



支援につながりにくい対象へのアプローチ

任意団体「ハピママメーカープロジェクト」は、埼玉県川口市を活動拠点とし、いわゆる「夜の世界」で働くシングルマザーを中心に支援を行っています。

夜間の仕事のため、生活時間の違いや、周囲の偏見などから、問題を抱えていてもなかなか行政の支援情報や支援団体につながりにくい人達を対象に、フードパントリーをきっかけとして支援につなげています。

令和3年度はフードパントリーを6回開催し、ひとり親家庭179世帯を含む、のべ798人が参加しました。フードパントリー事業では、食料の配布だけでなく、企業や個人からのご寄付によるおむつや生理用品などの衛生用品、また洗剤や化粧品などの生活用品の無償配布も行いました。

フードパントリーの開催日に合わせて、親子で楽しめる七夕やハロウィンイベント等の季節の行事やミニ縁日(お菓子のつかみ取り、カップラーメン積み、輪投げ、駄菓子屋さんごっこ等)の交流事業も企画しました。

コロナの影響により、予定していた交流事業の一つの

リサイクル市は、一部、内容の変更を余儀なくされましたが、こども服・ベビーカー・ランドセル等のリサイクルや化粧品セットの配布を実施しました。

また、弁護士や社会福祉士、心理士、スクールカウンセラーなどによる相談事業も年に5回行い、必要な支援につなげました。

これらの活動については、テレビや雑誌で取り上げられることもあり、注目の高さも感じました。

支援を受けた方々からは、「食べ物などもこどもが喜ぶものが多く、ありがたいです」という感謝の言葉の他に、「私でお役に立てるならボランティアでは是非参加させてください」という声もあがり、実際に支援対象者がボランティアとして運営に関わることも増えています。

事業の実施で構築された関連団体・機関との連携を生かし、今後も保護者の就労の時間帯などにより、社会的に孤立することがないように、また、すべてのこどもたちが健やかに成長できるよう支援を続けていきます。



いこいスペース^{むげん}∞こあまるちゃん家(熊本県)



こどもを中心とした地域の拠り所に

任意団体「いこいスペース^{むげん}∞こあまるちゃん家」は熊本県天草市で、「食と心のやすらぎを提供する居場所」・「困っていることを言える場所」・「こどもだけでなく親もSOSを出せる場所」を目指し、こどもを真ん中にした地域の拠り所を開設しています。

コロナの影響により活動に制限が生じる中、ひとり親世帯・生活困窮家庭のこどもたちをはじめ、行政機関から紹介のあった世帯に、食品やお弁当などの配給を行いました。利用者を2つのグループに分け、月に2回の支援とし、その中でも特に支援が必要とされる約20%の世帯には、毎週の配給を行いました。調理の際は、密にならないよう工夫しながら、毎週120～150食（第5週220食）作りしました。

受け渡しは、一軒家の「まるちゃん家ホーム」をフルに活用しました。調理担当、フードパントリー担当合わせて、毎月延べ100名以上にもなるボランティアの方々には、「できる人達で～できる時に～できることを～できるしこ（※）で～」を合言葉に、無理なく都合の良い日に気軽に参加できるような呼び掛けを行っていました

（※「できるだけ」を意味する地元の言葉）。

天草市は東京23区がすっぽり入る広域なので、まるちゃん家に参加できないご家庭には、行政機関、地区の主任児童委員の協力により、各世帯に手渡していただきました。

コロナの感染状況が比較的落ち着いた時には、野外での体験学習を実施したほか、夏休み等の長期休み時には「まるちゃん家ホーム」も開放し、宿題をしたり、昼食を作って食べたりしました。

フードバンク・フードパントリー事業を進める中、フードバンク熊本から天草支所としての活動を提案いただき、片道約2時間半～3時間の道のりを、多いときは週1から2回、熊本市内へ食品などを受け取りに行っています。天草にもフードバンク拠点ができることで、管内の困りごとのある方々の支援に更につなげることができるので、今後は物流ネットワーク拡大にも力を入れ「官と民が協働で、こどもを真ん中にした地域共生の居場所づくり」を目指していきます。

④ 児童又はその保護者の就労支援



北見NPOサポートセンター(北海道)

親子で苦境を乗り越える力を養う

NPO法人「北見NPOサポートセンター」は、北海道北見市で主に就労面でのサポートを中心に、NPO活動・市民活動・企業活動などの中間支援を行っています。

当センターではこのたび、「子供の未来応援基金」を使わせていただき、保護者と子どもそれぞれに対応したプログラムを設け、親子が共に「稼ぐ力」と「学ぶ力」を身に付け、どんな困難も親子で乗り越える力を強化するための研修を実施しました。

保護者を対象にしたビジネス力強化講座は、ビジネスコミュニケーションやビジネスマナーなどの知識の習得に加え、ワークやロールプレイングを多く取り入れた、より実践的な内容とし、同時に就労意欲や所得の向上のための、意識付けの大切さも重点的に教えました。自己への信頼性を高め、自己実現の大切さを感じることで、保護者は、自分たちは変わることができるという自信が芽生え、働く意欲が大きく向上しました。この研修の実施を通じて、意識を変えることで、希望する仕事に就き、環境を充実させることが可能であることが実感できまし

た。

また、子どもを対象にした講座では、自活力を高め、みんなで楽しく取り組めるよう、メニューを工夫しながら料理実習を行ったり、生活力を身に付けるための片付け実習を行ったりしました。新型コロナウイルス感染防止のため、作った料理は会食形式ではなくテイクアウト形式としましたが、参加者同士が大変仲良く調理をしており、満足している姿が印象的でした。

1年を通して、保護者向け講座には延べ72名、子ども向け講座には延べ58名が参加しました。密を避けての実施となりましたが、保護者からは、「自己実現への意欲が大きく向上し、それを子どもと共有する大切さを感じることができた」との感想が聞かれたほか、子どもたちからは、「お母さんが一生懸命に楽しそうに学んでいる姿を見て、お母さんが喜ぶような料理をつくり、家族の一員として努力したい」などの感想が聞かれました。今後も親と子の絆と能力を高め、苦境を乗り越える力の強化を目指してサポートを続けてまいります。

⑤ 児童養護施設等の退所者等や里親・特別養子縁組に関する支援、他



なごやかサポートみらい(愛知県)

施設出身者の孤立を防ぐ

NPO法人「なごやかサポートみらい」は、愛知県名古屋で児童養護施設等からの進学者を対象に、施設を出た後に社会で孤立することのないよう、アフターフォロー事業を行っています。

今回、基金を活用した事業においては、三つの柱を計画・実施しました。一つ目は、「進学者の集う場の開催」です。当初は、2か月に1回のペースで夕食を共にする機会を作り、進学者と信頼関係を築きながら、在学中の悩みを聞いていく予定でしたが、コロナ禍の影響により、定期的集う場を提供することが厳しかったため、代わりに、社会的養護当事者・支援者の声をまとめて、進学を目指している子どもたちをはじめ、関係者に向けた、メッセージ集を作成しました。

二つ目は、進学者への食材支援です。地域のフードバンクから食材を提供していただき、箱詰め後、希望者に直接手渡したり、郵送したりしました。毎月1回、延べ84名分の食材支援をしました。

三つ目は、進学者及び中退者への相談支援です。自身の悩みを気軽に発信できる入口としてSNS（LINE）を活用し、加えて電話、オンライン（ZOOM）も利用し、あらゆる時間帯にも対応できるよう、相談員3名体制で連携しながら実施しました。ライングループには5～7名前後の当事者が参加し、一年で60件の相談対応を実施しました。より深刻な事案は、専門家や関係機関による支援へと繋げました。

これらのアフターフォロー事業においては、当事者視点、当事者意識を持ち、共感・受容の気持ちで傾聴することを心がけました。現在、関係機関等からの問い合わせも少しずつ増えている状況です。社会的養護の子どもたちの進学問題を世間にもっと知ってもらい、まず大人たちがやれることを探して、次の世代を担う若者たちの学ぶ権利を保障していくことが大切だと感じています。

今後も当事者の生の声を聞きながら、将来に希望を持って生きてもらえるよう、活動を続けていきます。

こどもたちと家庭の変化

支援を受けた団体の活動により、こどもたちやそのご家庭に様々な変化が現れています。

■学習支援

「学習に対する集中力が向上した。」(中学3年生)

「登校への意欲が高まった。」(小学5年生)

「これまで自分だけの力ではできなかった宿題をやり遂げることができ、自信をもって登校できるようになった。」
(小学5年生)

「落ち着いてちゃんと勉強できる環境がある。」(全学年)

「繰り返し勉強することにより、わかるようになった。」(中学3年生)

「最初は一人で行けなかったが、待ち合わせ場所まで迎えに来てくれたので、徐々に通えるようになった。」
(中学3年生)

「1人の生徒に1人の講師・先生なのでいろいろ聞ける。」(中学1年生)

「教え方がうまくて、学校よりもよくわかるところがある。」(中学1年生)

「保護者への連絡が細かく丁寧で、こどもの様子がよく分かった。」(中学2年生の保護者)

「学習の途中でゲームなどを行い、楽しかった。」(中学1年生)

「昼の弁当をもらった時、家で食べたことがないようなおいしさだった。」(中学3年生)

「LD(学習障害)のある子が、タイピングをマスターし、日記などをつけられるようになった。」
(小学6年生の保護者)

「ここに来て前よりもテストの点数があがったから良かった。個人で教えてもらうから質問がしやすい。」
(中学3年生)

■居場所の提供・相談支援

「食材提供や市役所の相談が助かった。ありがとうございます。」(高校1年生)

「去年に比べると色々安心できている。去年は考えられなかった。」(高校3年生)

「ごはんがおいしい。自分で用意しなくていい。」(小学2年生)

「初めて作ったごはんばっかり。家でもやる！」(食育イベントに参加した小学4年生)

「自分の家のように『ただいまー!』と入ってきて、学校であった話ができる。」(中学2年生)

「ギター初めて弾いた。モチベーションが上がった。」(小学6年生)

「レジを手伝えたのが楽しかった。本当のお店ではまだできないから、このような体験ができてとても勉強になるし楽しい。」(中学生)

「お休みの日なのに友達と遊べるのが楽しい。」(小学生)

「いつも美味しい食事や交流する機会を作っていただきありがとうございます。いつか私もこども達も年月が過ぎたら、ボランティアをする側になりたいと思います。」(保護者)

「こどもは気持ちが前向きになってきて、自分のやりたいことをやり始めました。長く動けなかったこどもが、少しずつ自分を取り戻して前に進めるようになってきました。ホントに嬉しい限りです。私みたいに苦しんでいる親にこの居場所を伝えていきたいです。」(中学1年生の保護者)

■衣食住など生活の支援

「こどもがとても嬉しかったようで、帰り道はずっとお喋りしていました。いつ行っても皆さん笑顔で迎えて下さって、本当に有り難いです。」(3歳児の保護者)

「只今、食糧が届きました。コロナや値上げで困っているのでいつも沢山頂き、本当に助かっています。ありがとうございます。」(乳幼児の保護者)

「たくさんの物資を届けてくださり本当にありがとうございました。感染のことを考えるとともに言葉をかわすことすら避けなくてはならず、心苦しく思いました。どうか許してください。」(保護者)

「この度は、突然のSOSに対応して下さりありがとうございました。こどもたちは、食欲も落ちていたのですが、今夜はいただいたみかんとナシを喜んで食べてくれました。その姿をみてホッとしています。」(6歳、4歳、妊娠中の保護者)

■児童またはその保護者の就労の支援

「こどもを出産してから勉強をする機会がなかったので、とても良い機会になりました。」(30代・保護者)

「学んだことを意識して実践していたら、任される仕事が増え、給料アップしました！」(30代・保護者)

「参加したことで、講師の方や仲間から刺激を受け、私の背中を押してもらえ、人生まで大きく変わったような気がします。」(40代・保護者)

「社会人として長く過ごす中で、改めてビジネスマナーの基本を教わり学ぶべきことが多々ありました。仕事へのモチベーションも上がり、志のある仲間に出会えたことが、何よりの宝となりました。」(30代・保護者)

(親子プログラムに参加した親子の声)

「お料理をするのがとても楽しかった。ずっとあればいい。」(小学生)

「ほかの学校のお友達ができてうれしかった。」(小学生)

「できる事が増えて、やってみよう！の気持ちが強くなったように思います。」(小学生の保護者)

「積極的に家事に関わるようになり、とても助かっています。参加してよかった！親子でそれぞれが学べるというコンセプトがとてもよかったです。」(小学生の保護者)

■児童養護施設等の退所者等の支援

「家族とのトラブルがあった時など、アドバイスをもらいました。家庭の問題は施設退所後もずっと背負っていくものなので難しいです。施設退所後も話を聞いてくれて心強かったです。」(20代退所者)

「施設を卒業してから、生活と学業の両立を目指していましたが、自分の力のみでは経済面的にも厳しいことが多くありました。コロナで収入が減る中、食材支援はとても助かりました。中でもお米は、毎日食べるものなので一番嬉しかったです。食材支援があるおかげで気持的にも金銭的にも少し余裕が出来ました。」(大学生)

支援に携わる方、ボランティアの方の声

子供の未来応援基金による支援を受けた団体の活動に携わっている方からは、こんな声が寄せられています。

「最初は5分位しか勉強への集中力が続かなかった子どもが、その子に合わせて少しずつ慣らしていくことによって、徐々に集中できる時間が伸び、落ち着いて学習できるようになりました。」(支援団体スタッフ)

「家庭や学校に居場所を見出せない子どもに安心して通える場所があり、そこで大学生やスタッフが関わることでより良い成長につながっていると思います。」(支援団体スタッフ)

「年齢の異なる子どもたちが一緒に勉強し、遊び、ご飯を食べながら自由に楽しく交流できる場所があるのはいいことだと思います。」(ボランティア)

「子どもたちと関わる中でしんどいこともあったけど、思い出を作ることができてよかった。」
(大学生ボランティア)

「子どもたちに対して、直接の食提供、食文化を伝えること、栄養バランスの重要性など様々なことを伝えることが出来た。」(食の支援ボランティア)

「私自身が生活に苦しい中ではありますが、自分でも誰かの力になることができると元気をもらえます。」
(支援団体スタッフ兼被支援者)

「仕事柄相談できる人がいなく、孤独を感じていました。ここは仕事への理解もあり、安心して利用することができます。ボランティアスタッフとしての参加も楽しいです。」(支援団体スタッフ兼被支援者)

「子どもたちは回を追うごとに目覚ましい成長を遂げていました。自宅や保育園とも違う、新しい居場所ができたことで何か感じとることがあったのだと思います。こういった場所や時間の提供がとても大切だと再認識しました。」(支援スタッフ)

「子どもたちの出来ることが増えて上手になっていく姿を見るのが嬉しかったです。また、子どもたち同士で譲り合いなどのコミュニケーションが取れるようになっていくことも、素晴らしいと思いました。多くの子どもたちと接することで、自身の成長も感じることができ大変貴重な時間になりました。」(支援スタッフ)

「やる気のある子、そうじゃない子、はじめは様々でしたが、個々の出来ることから少しずつ取り組み、最後は皆が積極的に参加してくれたことが嬉しかったです。食器洗いを初めてやった！と満足気に話してくれた子が特に印象に残っており、出来ることを増やす経験の場にもなっていると実感できました。」(支援スタッフ)

「活動を通して、職場以外の人と関わる機会をつくることの大切さや、情報収集の方法、行政とのつながり方がわからない方々が多いことにも気付くことができました。改めて、相談できる団体・行政や、悩みに応じて専門家につなげてくれる組織を全国に増やすことの必要性を感じました。」(支援スタッフ)

令和3年度未来応援ネットワーク事業 支援団体一覧

- 学 び：様々な学びを支援する事業
- 居 場 所：居場所の提供・相談支援を行う事業
- 衣 食 住：衣食住など生活の支援を行う事業
- 就 労：児童又はその保護者の就労を支援する事業
- 退所者等：児童養護施設等の退所者等や里親・特別養子縁組に関する支援事業
- そ の 他：その他、貧困の連鎖の解消につながる事業

都道府県	団体名	テーマ	事業名	支援金額(円)
北海道	ゆめみ〜る	学び	子ども食堂における学習支援体制の整備と他の子ども食堂への支援事業	2,994,000
	さっぽろ青少年女性活動協会	居場所	子ども・若者の居場所「いとこんち」事業	2,185,000
	フードバンクイコロさっぽろ	衣食住	子ども応援プロジェクト事業	2,996,000
	北見NPOサポートセンター	就労	どんな苦境も親子で乗り越える力を身につけるハッピーチャレンジ事業	1,780,000
	m4Lab	衣食住	子ども食堂ならびに寺子屋事業	1,000,000
青森県	ブラシア	居場所	みんなの居場所「わむすび」・みんなのおふる「わむすび」事業	1,000,000
	子ども食堂すこやかプロジェクト	衣食住	無料の学習支援と食事提供の子ども食堂事業	300,000
岩手県	ミンナソラノシタ	衣食住	ひとり親世帯等居住確保が困難な方の支援事業	1,000,000
宮城県	やっぺす	居場所	ママこども食堂を通じた親子の居場所づくりとこころのケア事業	2,996,000
山形県	ブチユナイテッドアスリートクラブ	衣食住	コロナに負けるな！孤食をなくすひとり親家庭等への配食等事業	3,000,000
	福祉サポートセンター山形	居場所	児童養護施設の子どものリモート&リアル学習支援事業	1,000,000
	はなみずきの会	居場所	みんなの広場事業	300,000
福島県	NEXTしらかわ	学び	白河の未来を次世代へ！白河未来研究室事業	2,988,000
	つなぐ舎	居場所	安心・安全な居場所としての子ども食堂の運営事業	1,000,000
	寺子屋キッズ21・しゅくだいカフェ	居場所	大人が見守る安全・安心な居場所でしゅくだいを頑張ろう！事業	1,000,000
	福島就労支援センター	就労	貧困や児童養護施設など困難を抱える子どもたちへの学習支援事業	300,000
栃木県	子ども食堂『みんなてごはん・Kiitos』	居場所	子ども食堂・シングル世帯の子育て相談支援・居場所事業	1,000,000
群馬県	みんなのおうえん団	学び	小中学生向け学習支援事業	300,000
埼玉県	すくすく広場	学び	リモート学習と対面指導を両立する学習支援事業	1,000,000
	宮代町家庭教育支援チーム	学び	イエナプランを取り入れた無料学習サポート事業	300,000
	カイロス	居場所	「ただいまの家」事業	300,000
	wakka	居場所	こども相談所事業	1,000,000
	FUTURE DESIGN	学び	貧困連鎖をくいとめる街の学び場『コドモ農業大学』事業	1,000,000
	ハピママメーカープロジェクト	衣食住	夜の世界で働くシングルマザーの孤立を防ぐ支援活動事業	300,000
	みんなの食堂Flat	衣食住	地域をつなぐ子ども食堂・フードパントリー事業	300,000
千葉県	せんなり村	居場所	せんなり村 地域の人と人とのつながりや関わりを大切に、心と体を元気にする交流拠点事業	1,000,000
	子供プラス未来	衣食住	移動する子ども食堂「こどもらフードキャラバン2021」事業	3,000,000

都道府県	団体名	テーマ	事業名	支援金額(円)
東京都	サンカクシャ	居場所	義務教育終了後の孤立する若者に対しての包括的伴走支援事業	3,000,000
	全国こども食堂支援センター・むすびえ	居場所	地域ネットワーク団体支援を通じた、こども食堂の地域防災拠点化事業	2,996,000
	TEAM	居場所	To The World プロジェクト事業	3,000,000
	ウイズアイ	就労	養育困難家庭の子育て応援とシングル家庭の親の就労を応援する事業	3,000,000
	きもの笑福	退所者等	児童養護施設で過ごした子供たちへ七五三・成人振袖支援プロジェクト事業	2,780,000
	英会話同好会 fromOTA	学び	こども食堂と連携した子ども向けオンライン学習支援事業	1,000,000
	なないろ	学び	小学生と中高生の多様な成長・発達を支援する事業	300,000
	あだち子ども支援ネット	居場所	ほっとステーションプロジェクト事業	1,000,000
	あったかキッチン水元	衣食住	「夏休み・冬休み・春休みお弁当プロジェクト」事業	1,000,000
	フードバンク調布	衣食住	調布市内の生活困窮家庭および障がい児施設の子ども達への食糧支援事業	1,000,000
	アフォーラ	その他	子どもの居場所活動を継続的に運営するための基盤整備事業	1,000,000
神奈川県	アートスペース「と」関内	居場所	コロナを乗切るデジタルシステムを活用した子ども・家庭応援事業	3,000,000
	まちのかぜ	居場所	こども食堂の設立・無料弁当配布事業	1,000,000
新潟県	フードバンクしばた	衣食住	フードバンクしばた こども支援プロジェクト事業	3,000,000
	子どもみらい食堂	衣食住	子どもみらい食堂事業	1,000,000
山梨県	子ども・教育と貧困問題を考える会	学び	経済的困窮の家庭の中学生への学習支援事業	300,000
長野県	ダイバーシティ信州	居場所	LGBTQユース及び関係者の居場所づくり事業	1,000,000
岐阜県	教育・地域交流機構	学び	経済的困難世帯の子供の学習機会均等化事業	2,379,000
	あしたの支援室	学び	地域の子ども達のあしたを拓く支援事業	1,000,000
	みんなの未来をつくる会	居場所	誰もがホッとできる居場所～学びバ遊びバ@やすい～事業	300,000
愛知県	なごやかサポートみらい	退所者等	児童養護施設等を退所した進学者を対象としたアフターフォロー事業	2,653,000
	とまと食堂	居場所	子どもの孤食対策及び経済格差による体験活動の貧困への支援事業	300,000
滋賀県	Take - Liaison	居場所	子どもの貧困にかかわる生活学習支援と居場所づくり事業	1,000,000
	ボランティアグループ「たんぼぼ」	居場所	夜の子どもの居場所「フリースペース」事業	300,000
京都府	アガペー	居場所	「発達障害の子どもや不登校児童」の居場所づくり事業	300,000
大阪府	住吉隣保事業推進協会	居場所	地域でつくるこどもの包括ケアシステム事業	2,471,000
	ヒューマンワークアソシエーション	居場所	コロナショックから子育て世帯を守るセーフティネット事業	2,938,000
	大阪市よさみ人権協会	衣食住	地域で支えるチャイルド・プア0（ゼロ）事業	3,000,000
	にぎわい夢創りプロジェクト	衣食住	貧困や様々な事情を抱える子どもへの食事提供・食材配布・体験活動事業	3,000,000
	ココまな	学び	経済的な困難を抱える子どもたちへの学習支援事業	300,000
	日本国際育成支援機構	学び	生活困窮世帯、ひとり親家庭、外国人世帯の小学生の学習支援事業	1,000,000
	yucoco	学び	経済格差が生む教育格差・経験格差を縮めるよう支援する事業	1,000,000
	こども食堂「にじっこ」	居場所	こども食堂事業	300,000
	ひとことつむぐ	居場所	寄ってこ Yosuga～誰でもおったらええやん～事業	300,000
	ほしぞら&ふれあいハウス鳴滝	居場所	子ども達を支える居場所づくり事業	1,000,000
	HOMEステーション	退所者等	多様な4つの居場所（MANA - viva・ASO-viva・KATA-riva・SODA - tuva）【フードパスひらの】事業	1,000,000

都道府県	団体名	テーマ	事業名	支援金額(円)
兵庫県	神戸市職員有志	学び	経済的事情や発達障害、不登校等の中学生への無料学習支援事業	1,000,000
	兵庫子ども支援団体	学び	地域の子どもたちが夢を諦めることのない社会を目指す事業	1,000,000
奈良県	大宮地区社会福祉協議会	居場所	おかえりスタディー教室事業	3,000,000
	青少年の自立を支える奈良の会	退所者等	家庭の崩壊や虐待をなかったことにせず前に進める居場所と出番を事業	2,946,000
	あつあつごはんを食べる会	学び	宿題café事業	300,000
	せいじゅんたすけあいこども食堂	居場所	こどもの居場所づくり、子育て相談支援、様々な学びを支援する事業	1,000,000
和歌山県	フードバンク和歌山	衣食住	子供の光輝く未来のために、地域と共に持続可能な復興を支援する事業	2,941,000
	子どもの生活支援ネットワークこ・はうす	居場所	子どもたちの夜の居場所新規開設事業	1,000,000
	はしっ子えがおサポート	居場所	子どもたちの自信を支え、夢や希望を応援する事業	1,000,000
鳥取県	こども食堂「ネバーランド」	居場所	宿泊機能を持つこども応援プロジェクト (こども食堂・お弁当&リモートコミュニケーション) 事業	2,982,000
島根県	フードバンクしまね あったか元気便	衣食住	小・中学校の就学援助世帯を対象としたフードバンク事業	1,000,000
岡山県	ボランティア団体わしがやらねば	居場所	サポートを必要とする家庭の不登校児童生徒の居場所提供事業	1,000,000
広島県	どりいむスイッチ	退所者等	社会的養護経験者等のためのシェアハウス運営の標準化と普及事業	2,958,000
	無料塾寺子屋「夢」	学び	無料塾寺子屋「夢」事業	300,000
香川県	まんまるサポート	学び	困難を抱える子どもたちを対象にした総合的な学習・生活支援事業	3,000,000
福岡県	あーすちやれんじャー	衣食住	ココプレイス 子育て支援事業	2,000,000
	フードバンク福岡	衣食住	コロナ禍でも負けない！子どもの未来を応援するフードバンク拡大事業	3,000,000
	福岡教育サポート	学び	貧困世帯の子どもたちの学力と進路を保障するための学習支援事業	300,000
	さわら子どもひろば	居場所	こども食堂・居場所作り事業	1,000,000
	Smile ネットワーク北九州	居場所	コロナ禍で困難を抱える家庭や子ども達への無料学習支援及び相談対応事業	1,000,000
佐賀県	さくらんぼ教室	学び	経済力の弱い家庭の発達障害児童生徒への療育支援事業	1,000,000
長崎県	ターミナル学習室	学び	「子どもの貧困化」を起因とする学力格差を補う取組事業	2,218,000
熊本県	熊本私学教育支援事業団	学び	熊本の地域に密着した子どもたちの学習・食育・居場所支援事業	3,000,000
	いこいスペース∞こあ まるちゃん家	衣食住	子どもを真ん中にした地域共生の居場所づくり事業	3,000,000
	山鹿こども食堂 百華	学び	経済的困難を抱える子どもの学習支援事業	1,000,000
	OneField	居場所	未来へつなぐ体験、心の居場所作り事業	1,000,000
	こどもキッチンブルービー	衣食住	子どもが集う安心安全な第3の居場所づくり事業	1,000,000
大分県	まど	居場所	持続可能な子どもたちの生涯学習と地域格差解消活動に挑戦する事業	2,904,000
	きたく部	学び	きたく部事業	1,000,000
	キャリアサポート	就労	育てよう、地域の未来を創る人（ひきこもりゼロを目指して）事業	1,000,000
	一緒に歩こう会 居場所サロンわかばハウス	退所者等	あなたの親戚の家増やしましょうプロジェクト事業	1,000,000
宮崎県	みやざき公共・協働研究会	学び	地域力を生かした貧困家庭の親と子どもの未来を育むための伴走型支援事業	2,940,000
鹿児島県	親子ネットワークがじゅまるの家	学び	こどもの居場所「子ども食堂」と「学習支援」事業	2,980,000

ご協力いただいた企業・団体

基金へのご協力 様々な企業・団体や個人の方からご協力いただきました。その一部をご紹介します。

■募金のご協力

- (株)イトーヨーカ堂は、全店舗の会計レジに募金箱を設置しています(毎年3月～5月に実施)。令和3年(2021年)からは「セブンマイルプログラム」の寄付メニューに「子供の未来応援基金」を追加し、募金箱の設置期間中は、マイルでも寄付ができるようになりました。



■ポイントや寄付付き商品等による寄付協力

- (株)NTTドコモでは、「dポイントクラブ」に寄付メニューを設置して、dポイントによる寄付を受け付けています。



- (株)オランダ家は、寄付付き商品として平成30年(2018年)より「ミッフィーサブレ」を販売しています。令和3年(2021年)からは「メラニーサブレ」も追加し、売上げの一部を寄付しています。



■寄付型自動販売機の設置

- 自動販売機の売上げ1本ごとに寄付される仕組みです。現在、全国の企業・事業所等に200台以上の寄付型自動販売機が設置されています。



■不用品の買い取りによるご協力

- (株)バリューブックスは平成28年(2016年)に「こどものみらい古本募金」を創設しました。集められた本を買い取り、その査定額を寄付しています。



■普及啓発のご協力

- (一社)日本民営鉄道協会に加盟する全国の鉄道会社49社がポスターの掲出に協力しています。



このほかにもさまざまな形でご協力をいただいています。詳しくはホームページをご覧ください。



■ご寄付いただいた企業・団体

令和3年度も、多くの企業・団体、個人の皆様から子供の未来応援基金に対し、寄付金のご支援をいただきました。その一部をご紹介します。



株式会社カプコン



株式会社壱番屋



日本証券業協会



株式会社NTTドコモ



株式会社北海道銀行



サントリー食品インターナショナル株式会社



株式会社フォレスト・ワン



株式会社すかいらーくホールディングス



東亜合成株式会社



株式会社イトーヨーカ堂



日本電信電話株式会社



株式会社ラピロ



株式会社バリューブックス



JFEホールディングス株式会社



株式会社ナック



日本軽金属株式会社



富士テレコム株式会社



明治ホールディングス株式会社



株式会社オランダ家



一般財団法人アズビル山武財団



株式会社アドバンテスト



株式会社サンセイランディック
株式会社サンセイランディック



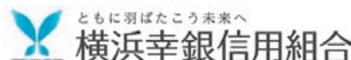
株式会社東京スター銀行



日油株式会社



三菱食品株式会社



横浜幸銀信用組合



株式会社ライジングサン商会



株式会社渡辺商行

このほかにも多くの企業や個人の皆様にご支援をいただいています。詳しくはホームページをご覧ください。





子供の未来は日本の未来

● 基金についてのお問合せ先

独立行政法人福祉医療機構

TEL：03-3438-0211

● SNSで最新の活動について情報を発信しています



● 事業全般についてのお問合せ先

内閣府 子供の貧困対策推進室

TEL：03-6257-1438

● 子供の未来応援国民運動ホームページ

